



## 2023年9月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2023年5月12日

上場会社名 株式会社Waqoo 上場取引所 東  
 コード番号 4937 URL https://waqoo.jp/  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 井上 裕基  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理部長 (氏名) 近藤 成志 (TEL) 03-6805-4600  
 四半期報告書提出予定日 2023年5月12日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 有

(百万円未満切捨て)

## 1. 2023年9月期第2四半期の連結業績(2022年10月1日~2023年3月31日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年9月期第2四半期	900	—	208	—	216	—	211	—
2022年9月期第2四半期	—	—	—	—	—	—	—	—

(注) 包括利益 2023年9月期第2四半期 211百万円(—%) 2022年9月期第2四半期 一百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年9月期第2四半期	70.24	69.52
2022年9月期第2四半期	—	—

(注) 当社は、2022年9月期連結会計年度末より連結財務諸表を作成しているため、2022年9月期第2四半期の数値及び対前年同四半期増減率並びに2023年9月期第2四半期の対前年四半期増減率については記載しておりません。

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年9月期第2四半期	1,631	953	58.5
2022年9月期	1,563	742	47.5

(参考) 自己資本 2023年9月期第2四半期 953百万円 2022年9月期 742百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年9月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2023年9月期	—	0.00			
2023年9月期(予想)			—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 2023年9月期の連結業績予想(2022年10月1日~2023年9月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	円 銭
通期	1,791	△34.4	115	—	149	—	122	—

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)  
 新規 —社(社名)— 、除外 —社(社名)—

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年9月期2Q	3,006,178株	2022年9月期	3,006,178株
② 期末自己株式数	2023年9月期2Q	—株	2022年9月期	—株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2023年9月期2Q	3,006,178株	2022年9月期2Q	3,001,178株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、リスクや不確定な要素等の要因が含まれており、実際の業績は記載の見通しとは異なる可能性がございます。なお、上記業績予想に関する事項は、4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(会計方針の変更)	10
(セグメント情報等)	10
(重要な後発事象)	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

当社グループは、前連結会計年度の第4四半期より連結財務諸表を作成しているため、前連結会計年度との比較分析は実施しておりません。

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症拡大に対する各種施策の効果もあり正常化に向け動き始めましたが、ウクライナ情勢の影響によるエネルギーや原材料価格の高騰、急激な円安の進行による物価上昇圧力等により、依然として予断を許さない状況が続いております。

このような状況の下、当連結会計年度における当社グループの主な取り組みとしては、SBCメディカルグループとの業務提携を通じ、次の3つの成長戦略を軸にして、事業を推進しております。

I 新商品の共同開発および、当社既存商品の卸販売を実施

II クリニック向け広告の運用受託

III 再生医療事業部の立ち上げ・拡大

当社の主力事業であるD2C事業におきましては、新規顧客の獲得単価の高騰により広告宣伝費を抑制した一方、既存顧客の継続率が想定よりも上回って推移いたしました。

また、メディカルサポート事業におきましては、全国の整形外科等に対して「血液由来加工（CPRP-FD）」の導入提案を積極的に展開してまいりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は900,273千円、営業利益208,722千円、経常利益216,054千円、親会社株主に帰属する四半期純利益211,143千円となりました。

セグメントの概況は、次のとおりであります。

#### (D2C事業)

D2C事業につきましては、広告宣伝費の投下を抑制した一方、「HADA NATURE（肌ナチュール）」ブランドの主力商品であるクレンジングを中心に、既存顧客、いわゆるロイヤルカスタマーの継続率が想定よりも上回って推移いたしました。また、主力商品のクレンジングに続く同事業の第二の柱を育てるべく、新たな商品の開発に注力してまいりました。

その結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は859,294千円、セグメント利益は399,342千円となりました。

#### (メディカルサポート事業)

メディカルサポート事業につきましては、全国の整形外科等に対して「血液由来加工（CPRP-FD）」の導入提案・支援を積極的に展開し、提携医療機関数の拡大に努めてまいりました。また、当事業年度初めに設置した再生医療事業部の組織運営を強固にするべく人材の採用を積極的に進め、今後の再生医療事業領域における成長の基礎を固めるべく、様々な取り組みを推進してまいりました。

その結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は40,978千円、セグメント損失は2,140千円となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

(資産)

当第2四半期連結会計期間末における流動資産は1,414,752千円となり、前連結会計年度末に比べ71,223千円の増加となりました。これは主に、現金及び預金の増加267,235千円、売掛金の減少125,348千円、商品の減少42,612千円によるものであります。

当第2四半期連結会計期間末における固定資産は216,327千円となり、前連結会計年度末に比べ3,305千円の減少となりました。これは主に、減価償却による減少3,105千円によるものであります。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末における流動負債は482,233千円となり、前連結会計年度末に比べ72,744千円の減少となりました。これは主に、買掛金の増加15,864千円、1年内返済予定の長期借入金の減少36,169千円、未払法人税等の減少27,337千円、未払金の減少25,088千円によるものであります。

当第2四半期連結会計期間末における固定負債は195,170千円となり、前連結会計年度末に比べ70,481千円の減少となりました。これは、長期借入金の減少70,481千円によるものであります。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産は953,676千円となり、前連結会計年度末に比べ211,143千円の増加となりました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益211,143千円を計上した結果、利益剰余金が増加したことによるものであります。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末より267,235千円増加し、1,173,460千円となりました。当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動による資金の増加は365,385千円となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益216,054千円の計上、売上債権の減少114,808千円、棚卸資産の減少51,250千円、未払金の減少25,088千円、未払費用の減少11,214千円、法人税等の支払額24,809千円があったことによるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動による資金の増加は8,500千円となりました。これは、償却債権の回収による収入8,500千円があったことによるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動による資金の減少は106,650千円となりました。これは、長期借入金の返済による支出106,650千円があったことによるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年9月期の業績予想につきましては、2022年11月18日付の「2022年9月期 決算短信」で公表いたしました業績予想から変更はありません。なお、当該業績予想につきましては、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	906,224	1,173,460
売掛金	246,946	121,597
商品	137,944	95,332
原材料及び貯蔵品	13,365	10,351
その他	39,047	14,009
流動資産合計	1,343,528	1,414,752
固定資産		
有形固定資産	497	385
無形固定資産	13,826	10,832
投資その他の資産		
長期貸付金	200,000	200,000
その他	5,310	5,110
投資その他の資産合計	205,310	205,110
固定資産合計	219,633	216,327
資産合計	1,563,162	1,631,079
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	9,146	25,011
短期借入金	170,000	170,000
1年内返済予定の長期借入金	209,987	173,818
未払金	76,978	51,890
未払法人税等	32,247	4,909
その他	56,618	56,603
流動負債合計	554,977	482,233
固定負債		
長期借入金	265,651	195,170
固定負債合計	265,651	195,170
負債合計	820,628	677,403

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	572,064	50,000
資本剰余金	564,064	1,086,128
利益剰余金	△393,652	△182,508
株主資本合計	742,476	953,620
新株予約権	57	56
純資産合計	742,533	953,676
負債純資産合計	1,563,162	1,631,079



## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年10月1日 至 2023年3月31日)
売上高	900,273
売上原価	180,449
売上総利益	719,823
販売費及び一般管理費	511,100
営業利益	208,722
営業外収益	
受取利息	782
償却債権取立益	8,500
雑収入	173
営業外収益合計	9,456
営業外費用	
支払利息	1,649
租税公課	475
営業外費用合計	2,125
経常利益	216,054
税金等調整前四半期純利益	216,054
法人税、住民税及び事業税	4,910
法人税等合計	4,910
四半期純利益	211,143
親会社株主に帰属する四半期純利益	211,143

## 四半期連結包括利益計算書

## 第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年10月1日 至 2023年3月31日)
四半期純利益	211,143
四半期包括利益	211,143
(内訳)	
親会社株主に係る四半期包括利益	211,143

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

	(単位：千円)
	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年10月1日 至 2023年3月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	
税金等調整前四半期純利益	216,054
減価償却費	3,105
受取利息及び受取配当金	△782
償却債権取立益	△8,500
支払利息	1,649
売上債権の増減額 (△は増加)	114,808
棚卸資産の増減額 (△は増加)	51,250
仕入債務の増減額 (△は減少)	15,864
前払費用の増減額 (△は増加)	9,275
未払金の増減額 (△は減少)	△25,088
未払費用の増減額 (△は減少)	△11,214
未払法人税等の増減額 (△は減少)	△6,940
未払又は未収消費税等の増減額 (△は減少)	30,266
その他	2,092
小計	391,840
利息及び配当金の受取額	4
利息の支払額	△1,649
法人税等の支払額又は還付額 (△は支払)	△24,809
営業活動によるキャッシュ・フロー	365,385
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	
償却債権の回収による収入	8,500
投資活動によるキャッシュ・フロー	8,500
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	
長期借入金の返済による支出	△106,650
財務活動によるキャッシュ・フロー	△106,650
現金及び現金同等物に係る換算差額	-
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	267,235
現金及び現金同等物の期首残高	906,224
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,173,460

## (4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2022年12月23日開催の第17期定時株主総会において、今後の当社の資本政策の柔軟性、機動性を向上させることを目的とする無償減資について決議し、当該決議について、2023年2月21日に効力が発生しております。

この結果、当第2四半期連結累計期間において、資本金が522,064千円、資本準備金が514,064千円減少し、その他資本剰余金が1,036,128千円増加しており、当第2四半期連結会計期間末において、資本金は50,000千円、資本剰余金は1,086,128千円となっております。

(会計方針の変更)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することといたしました。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

当第2四半期連結累計期間(自 2022年10月1日 至 2023年3月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注)	合計
	D2C事業	メディカル サポート事業	計		
売上高					
通販	829,864	—	829,864	—	829,864
その他	29,816	40,978	70,794	—	70,794
顧客との契約から生じる収益	859,681	40,978	900,659	—	900,659
外部顧客への売上高	859,681	40,978	900,659	—	900,659
セグメント間の内部売上高又は振替高	△386	—	△386	—	△386
計	859,294	40,978	900,273	—	900,273
セグメント利益又は損失(△)	399,342	△2,140	397,201	△188,478	208,722

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△188,478千円は、主に報告セグメントに配分していない一般管理費等の全社費用であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。